

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第8回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

- ・新市建設計画の変更について

(3) 自主的審議事項（公開）

- ・旧高土スポーツ広場（旧高土中学校跡地）の活用策について
 - ① まちづくりを話し合う会の振り返り
 - ② 今後の進め方について

3 開催日時

令和4年12月19日（月）午後6時30分から午後7時50分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：青木正紘（会長）、上野秀平、玄蕃郁子、高橋清司（副会長）、田中利夫
塚田春枝、日向こずえ（副会長）、松山公昭（欠席4人）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

- ・挨拶

【山崎主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【青木会長】

- ・会議録の確認者：田中委員

次第 2 議題「(1) 報告事項」の「新市建設計画の変更について」、事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料 1 に基づき報告

【青木会長】

今ほどの報告について質問を求める。

(発言なし)

【青木会長】

以上で次第 2 議題「(1) 報告事項」の「新市建設計画の変更について」を終了する。

次に次第 2 議題「(2) 自主的審議事項」の「旧高土スポーツ広場（旧高土中学校跡地）の活用策について」に入る。事務局より説明を求める。

【小林センター長】

- ・資料 2 に基づきこれまでの審議経過を説明

【山崎主事】

- ・まちづくりを話し合う会の開催結果を報告

【青木会長】

まず、「① まちづくりを話し合う会の振り返り」を行う。

各委員より一言ずつ感想を願う。

【上野委員】

先日の会議で感じたことは、会議室で意見交換をするよりも、現場を見ながら話をすることがよいということである。

それと高土まつりの件で、私はあの場所を高土区の多くの人が利用することによって、市にも良さが伝われば、インフラ整備も進むのではないかと思う。絶対にあの場所を負の遺産としてはいけないと思っている。

【玄蕃委員】

私たちは今まで事務局からいろいろな提案をいただきながら、夢のある話を進めていた。だが、2班の参加者からはもっと現実的な意見があった。

「市に返したらどうか」「活用は必要ない」などの意見である。実際、あそこは市の普通財産の土地で、私たちが何かをするということには、一つ大きなハードルがある。

しかしながら、愛着のある土地であることは間違いないし、ある町内会長からは「葡萄園と繋がりを持って進めてはどうか」という意見もあった。

また、高士といえば川上善兵衛である。先日、小学校の学習発表会にも行ってきたが子ども達はよく善兵衛さんのことを勉強している。

先ほど上野委員が言ったように、最初から形を整えて何かするというよりも、できることから細々とやるほうがよいと思う。特に来年は高士小学校 150 周年でもあるので、善兵衛さんに繋がるような取り組みができればよいと思った。

例えば地区の各行事に冠を付けて意識付けをしたり、体育協会で岩の原葡萄園まで歩くような事業を企画いただくなど、何か高士地区でまとまるようなことがよいと思う。

小学生に「善兵衛さんはどんな人か」と聞くと、「諦めない人」と言われた。やはり、この地域でも「これでいいや」と思えばそれで終わってしまう。この地域はあの善兵衛さんがつくった町なので、何か高士ならではのことができそうな気がする。

【田中委員】

私のいた 1 班では、広場について、「遠くて誰も行かない」「なぜそんな話し合いをしているのか」という意見があった。これまでアンケートや広報等をしてきたにも関わらず、ご存知ない人もいて、残念であった。

それから水道の件について、消火栓からでは飲料に向かないというのはどういうことか詳しく聞きたい。

【小林センター長】

消火栓からの立ち上げについて、業者に確認したところ、水を出すことはできるが飲み水には適さないと言われた。飲み水として使うには、舗装した道の下に水道管の本管が埋まっていて、そこから引き込めばよいということであった。

それともう一つ、従来通りの高士小学校体育館で行う分の事業費については、順調に審査が進んでいる。まだ途中経過ではあるが、そのような状況であることを報告する。

【田中委員】

消火栓も、流れている水自体は飲料水だと思うが、なぜ使えないのか不思議である。

それと、従来の高士まつりは大丈夫だということだが、それでは広場の活用は全然進展しない。次回申請するには、何をやったら認めてもらえるかということである。

出席者からは、今の高士小学校が廃校になった後の方がいいのではないかという声もあったので、これからどうしたらよいか、難しい問題である。

【塚田委員】

このようにかしこまった会議でなく、フリートークというか、もっと気軽に話せるような場を作らないと、結局アイデアを出しただけで終わってしまう。

活用策を一つに集約しようとする「皆が使える広場」という抽象的なものになってしまい、結局「誰も使わない広場」になってしまう不安もある。どうしたら、もっと実りのある、具体的なものに集約していけるのか。

アイデアを持った人はたくさんいるのに、どうしたらよいか分からない。

【松山委員】

私事で何回か会議を欠席したため、会議録を読んできた。事務局に2点確認する。

まず1点、予算のことである。地域協議会と振興協議会で相談して進めるということであったが、それはもう申請したのか。

申請が通らなかったという話も出ているが、いつ申請して、金額はいくらだったのか。地域協議会には金額を提示したのか。これを聞きたい。

それからもう1点。塚田委員や玄蕃委員の意見は全くその通りである。話し合いをすればするほど、また同じことばかりやっている気がする。なぜかというと、抽象的なことばかりで具体的な話がないからである。

【小林センター長】

回答する前に、この地域独自の予算について説明する。「誰が申請者となるのか」という、主語の話である。

高士まつりは高士地区振興協議会の事業なので、申請者は振興協議会である。そこに、地域協議会は「祭りをスポーツ広場でやってほしい」というお願いをした。それを受けて振興協議会では、事業費の中に水道工事やネットを含めていただいた。

【松山委員】

状況は分かった。

それからもう1点、地元負担という話である。例えば100万円を地元で出そうとなった場合、行政として問題はあるのか。

【小林センター長】

それは問題ない。

地元で 100 万円出して水道を設置するという場合には、所定の手続きを取っていただければ可能だと思っている。その上で、祭りのソフト事業費の補助を市に申請するということも可能だと思う。

【松山委員】

お金がなければ集めればよい。皆で少しずつ集めれば、何も問題ない。そうでなければまた同じ話になる。

【高橋副会長】

まず、スポーツ広場の活用に関してである。

先ほどからも意見が出ているが、2 班では厳しい意見が多く出ていた。その辺も踏まえながら、今後の活用策を考えてみた。

まず、行政への働きかけをしなければいけない。市長をはじめとした担当者に現場を見てもらい、我々の思いを伝えたらどうか。文書だけでなく現場で伝えるということである。

それと、地域協議会を傍聴したことのある市議会議員の意見も伺ってはどうかと思っている。

また、先ほど松山委員が言われたように、高土地区に関係する企業に支援をお願いすることもよいと思う。

それと、話の中で感じたのは、町内会によって温度差があるということである。町内会の交流が必要ではないかと思った。これは振興協議会等をお願いする案件だと思う。

確かに参加者からは「なぜ今更こんな話をするのか」という意見もあったが、これは意識付けが必要だったのだと思う。実はこのような話は 14 年前から出ている。私も知らなかったが、当時の市長に現場に来ていただいて、お話ししている経緯がある。まずは皆さんから共有化を図っていただくことが大事だと思う。

次に、まちづくりの関係については、地域の魅力をもっと発信しなければいけないと思った。地域の宝の P R や、公民館事業で作った魅力マップの映像化など、地区内だけでなく、地区外、市外、県外にも発信できないかと思っている。

あと、各町内の紹介ということで、交流を深めて、別の目線から他の町内を見ていただくことも必要だと思った。

そのほか、地区の活動団体との連携や、高士の良い立地条件も生かして、皆で考えながら、まちづくりに繋げられればと思った。

【日向副会長】

先ほど松山委員が言われたように、今期も答えが出ないまま終わるのではないかというのが率直な感想である。

2班では、「活用する必要があるのか」という意見もあった。

ただ、これだけ時間を割いて町内会長から集まっていたり、アンケート取ったりしてきたので、地域協議会委員としては最低限、今後どうしていくかという答えを、皆さんにお伝えしなければいけない。それが使命だと思っている。

意見を集約することは大変だが、特に子どもたちには何か答えを出してあげないといけないと思う。それこそ、子どもたちは善兵衛学習を一生懸命やっているのだから、何かそれに繋がるようなことがあの広場でできたらよいと思う。

【青木会長】

私も委員として発言する。

1班で話があったのは、今回の申請の仕方が悪かったのではないかということである。水道工事が表に出すぎてしまった。高士まつりはこれまでずっとやってきたことであるし、たまたま今回の独自予算の雛形としても載っていたので、それに被せて進めてきた。

そもそもこの地域独自予算というものは、地域と行政と地域協議会が一生懸命話し合っただけで進めていくことが本質である。今回は、そういうところが今ひとつだったという感じがしている。

地域協議会として何をやったらよいかということで、やっとたどり着いたのが、あの広場の活用である。地域全体から賛同を得て、小学生の協力も得て進めてきたことなので、何としても歩みを止めてはいけない。

だから少なくとも、なぜ駄目だったのかということは知らなければいけないし、来て説明してもらいたいくらいに個人的には思っている。

それと、高士区の利点としては、岩の原葡萄園を抱えているということがある。

先般、振興協議会長と一緒に、葡萄園の幹部の方に我々の考えを話してきた。あの広場でブドウ栽培をできないかという話である。

話を聞いてみたところ、それはなかなか難しいということであった。今、原料としてのブドウが足りないため、あちこちから入手している状況だが、新たに葡萄園を作るこ

とまでは手が回らないということであった。そのような方針であることを確認した。

【松山委員】

振興協議会では、自分たちで 100 万円集めようという話は一切出なかったのか。ここでやめたらもう駄目だと思う。100 万円集めればよい話である。

【青木会長】

ご指摘の通りかもしれない。そのような提案は一言も出なかった。

次どうするということまで至っていないということだと思う。

【玄蕃委員】

前に現地学習をしたときに、水道管は体育館のところに埋めてあるという話を聞いたので、立ち上げは簡単だという認識でいた。

ただ、いずれにしてもあの土地は市の普通財産で、そこに水道を立ち上げるということ自体、簡単にやっていいことではないと思う。

私は今までの皆さんの話を聞いていて、何が足りないか考えていた。確かに高士はいろんな事業をやっているし、団体のまとまりもあるかもしれないが、全体構想がない。こういう町にしていきたいというテーマや目的というものが、はっきりしていない。

本来であれば、予算を作る際に、そういうものを一度きちんと練り直した上で、あの広場はどういう拠点になるのか位置付ける。そういった議論がないままに、ただあそこを活用しようと言っても、なかなか予算は取れないと思う。

前回、「地域活性化の方向性」という話があったが、他の地区で作られたものを見ると、大体同じような言葉を使っていて、あまりパツとしない。

ただ、高士といえば善兵衛さんがいる。この方は実際にまちづくりをした人でもある。一つ大きな枠を作って、その中に何個か大事な構成要素を入れる。その一つには、やはりスポーツ広場が入ってくると思う。

今のままでは、来年も予算が通らない気がする。

【青木会長】

地域協議会としては、最初からスポーツ広場に絞ってやってきたわけではない。いろいろ考える中で、まちづくりの拠点として、広場を有効利用して皆が集える場にしたいということを取りあえずの目標にしてきた。

今回の意見交換会で初めて知ったことは、高士区は高血圧の人が多いと昔から言われていたが、今は 28 区の中で要介護度が一番低いということである。皆が高齢化する中で、

健康に老後を過ごせるような環境を設えていくということは大事なことだと思う。

【塚田委員】

玄蕃委員の発言はもつともだと思う。

今更言っても遅いかもしれないが、高士地区をどういう地区にしていきたいか、世代を超えて話し合うような機会があまり無かったのではないかな。

おそらく、前期までの協議会ではそういう話し合いがあったのだと思う。協議会だより等でも回っていたのだと思うが、皆それについて興味を持たなかった。私も委員になるまで興味を持たなかった。

つまり、そういう意識付けをどうするかということも、私たちの大事なテーマになってくるのではないかなと思う。そうでないと、いつも話が元に戻ってしまう。

【田中委員】

いろんな話が出ているが、今の話では、もうスポーツ広場のことは度外視して別のことをやろうというような話になっているような気がする。

今までの話を続けていくのか、それとも高士の魅力とか別の話で進んでいくのか、その辺がはっきりしないと考えがまとまらない。

【青木会長】

それははっきりしている。

私としてははっきりしていて、あの広場を皆が集える広場にしたいということで意見集約してきたので、これで引き下げるわけにはいかないと思う。この協議会で決めてきたことでもある。

【松山委員】

そのとおりである。全然ぶれていない。

【青木会長】

さらに新市長になって、何とかしたいと、良い案がないかということで、無理やり押し込んできた結果だと思う。だんだん本音が出てきた。

【松山委員】

今後、振興協議会はどのようにしていくのか。

【青木会長】

先ほど言ったように、本来は地域とよく話し合っただけ進めるべきものである。そこがまだ少し欠けているので、それをしっかり進めなければいけない。

その中で、100万円集めようという話もあっても良いと思う。個人的にはそう思う。

【小林センター長】

今ほどの話を受けて、今後の進め方としては、まず正副会長と事務局で少しずつ具体的なものを提案し、それを揉んでいただくような流れになっていくと思う。

今回予算が付かなかったことは、水道に焦点を当てた場合に、そこは地域独自の予算の決まりの中では当てはまらないという結論が出たということである。

あそこを活用したいという議論を妨げる話ではない。そう考えると、この後の進め方はまだまだ考えられるのではないかと思う。

事務局としても、今後何ができるのかということ整理しながら考えていきたいし、確かにこれまでの議論の蓄積がある。だが、必ずしもその通り進めなければいけないのかというと、そうではない。もしかしたら、ゼロベースで考えて、グランドデザインを作っていくということもあり得る話だと思う。

つまり次回提案する際には、今の方針のまま進む場合と、少し立ち返って視野を広げた場合の両方の進め方を提案させていただきたいと思っている。

具体的に申し上げますと、一つは意見書の提出という方法である。そこに高橋副会長がおっしゃる通り、現場確認というものが伴えばもっと良いかもしれない。

【松山委員】

以前、市の担当課が来て説明したときに、ここまで水道が来ているから大丈夫だという話を私も聞いていた。それがどうして駄目になったのか、次の会議で報告してほしい。

【小林センター長】

でも、そこはあまり犯人探しをしても意味がないと思う。

それについても、何か他の方法がないか調べるということも一つの選択肢だと思う。

まだやれることはあると思っている。水道に特化した話になっているが、あそこに水道を付けばまちづくりが終わるわけではない。

【塚田委員】

廃校して随分時間が経っているので、水道管があったとしても古くて飲み水としては使えないという話かもしれない。だから犯人を捜しはやめたほうが良いと思う。

【小林センター長】

水道に特化するとそういう話になるが、例えば、今までのアンケート結果にもあったように花を植えるとか、芝生を植えるという方法もある。同じお金をかけるにしても、

こちらのほうが我々の目指すまちづくりの構想に近いと思う。

詳しくはまだ申し上げられないが、他の地区では、花壇整備に係る花苗購入の費用が地域独自の予算でいくつか申請されてきている。そのやり方であれば、可能性があるかもしれない。

ただ、そこで私がいつも気になるのが、これはまちづくりの1丁目1番地かもしれないが、地域の人たちが手を動かす必要が出てくる。誰が実際に花を植えるのか、誰が芝を張るのか。でも、そこは覚悟を持って「地域団体に運営・管理していきますよ」ということが言えるのであれば、前に進めると思う。

その覚悟がなければ、いつまでもお金の話をしても前に進まない。その辺も、今度、正副会長と協議をして、皆さんに提案できればと思っている。

【青木会長】

「② 今後の進め方について」は次回の会議にて協議したいと思う。

以上で次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「旧高土スポーツ広場（旧高土中学校跡地）の活用策について」を終了する。

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

— 日程調整 —

- ・ 次回の協議会：1月24日（火） 午後6時30分から 高土地区公民館 大会議室
 - ・ 内容：自主的審議事項
- その他、何かあるか。

【日向副会長】

- ・ 閉会の挨拶

【青木会長】

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。